

令和8年度第2回亀岡市地域公共交通会議(令和8年7月29日開催) 議事要旨	
報告	(1) ふるさとバス、コミュニティバスの運行状況等について
議事	(1) ふるさとバス別院コースの運行変更について
その他	
報告 (1)ふるさとバス、コミュニティバスの運行状況等について	
委員 (利用者の代表)	夜間タクシー運転手補助の応募者はどんな方か。
委員 (京都府タクシー協会)	年代は40代2名、50代3名、60代1名、性別は女性2名、男性4名で、定着が期待できる年代構成である。
会長	バス事業等を評価する場合、収支率や市負担額だけでなく、「バスにより外出が可能になった」等の定性的効果を評価する指標を検討する必要がある。スタンプラリー等の施策も、実際の利用促進への貢献度を検証することが重要である。1日乗車券の販売場所はどこか。
委員 (京阪京都交通)	亀岡駅前案内所、JR 亀岡駅観光案内所、バス車内で販売している。
委員 (京都運輸支局)	コミュニティバス利用者のうち、観光利用の割合は。
事務局	湯の花温泉等は独自送迎バスをされており、観光利用の割合はそれほど高くないと認識している。亀岡地区コミュニティバスは例年11月に鍬山神社の紅葉を目的とした観光利用があるが、昨年度は中国からの渡航自粛などがあり、他の月と変わらない利用であった。
議事 (1)ふるさとバス別院コースの運行変更について	
委員 (利用者の代表)	通常のバスと同じ第二種運転免許の運転士で運行できないのか。
会長	公共ライドシェアとしての運行を行うためには、一種ドライバーも二種ドライバーに近い大臣認定講習を受講する仕組みになっている。
委員 (利用者の代表)	運行開始までに、一種ドライバーを確保できる確約はあるのか。タクシー運転手への補助のような、第二種運転免許の補助を行うことはしないのか。
事務局	運転手の確保については、今後京阪京都交通と協力して取り組む。また、第二種運転免許は不要のため、補助は検討していない。
委員 (京阪京都交通)	二種ドライバーの採用は強化して取り組んでいるが、運転手数が5年前の約130人から現在約80人に減少しており、路線廃止を避けるために、公共ライドシェアへの移行を提案した状況である。一種ドライバーについても社内教育で技術を担保し、意欲のある方は大型二種免許取得へのステップアップも期待できる。
委員 (利用者の代表)	令和9年4月からの便数やダイヤの見通しは。 タクシー運転手への第二種運転免許補助について、再度教えてほしい。
事務局	令和9年4月以降の便数やダイヤについて、現在のふるさとバスは複数の路線でバスを乗り入れて運行しているが、今後公共ライドシェアになれば、2台の車両でダイヤを編成することになる。現在のダイヤからは変わることになるが、便数やダイヤについては現時点では未定である。 タクシー運転手への第二種運転免許取得補助は、コロナ禍以降に夜間のタクシー稼働台数が減少していることから、アルバイトでタクシー運転手になる方の第二種運転免許取得費用を補助し、夜間に稼働できるドライバー、車両数を増加させる取組である。
委員 (利用者の代表)	別院コースの再編については、利用者を意識した調査をしてほしい。 障がいを持つ方は、自治会からのアンケートに回答しづらい方もいるので、配慮をいただ

	きたい。
事務局	別院コースの再編にあたっては、利用者の方に直接聞き取りするアンケートも実施を予定しているので、利用者の状況にも十分配慮する。障がい者団体を通じたアンケートも検討する。
会長	ダイヤの再編にあたっては、パターンダイヤや電車への接続など、意識する必要がある。他に意見がなければ、本件は協議がととのったものとする。
その他	
社会福祉協議会配布資料について事務局から説明。質問等、特になし。	

以 上